

# 【上級者向け】オーブン粘土で 考古学ミニチュアをつくろう！

今回は、唐古・鍵考古学ミュージアムで展示している埴輪をモチーフに、オーブン粘土のミニチュアをつくります。

可能な方はミュージアムに行って実際の資料をじっくり観察し、肩や首廻りの曲面構成、細部の表現などを頭に入れておきましょう。

手元に参考となる資料（今回はミュージアムの図録写真を使っています）を置き、見比べながらつくりましょう。



1 つめのモデルは、羽子田遺跡出土の埴輪牛（重要文化財）です。

今回はオーブン粘土のこげ茶色を使用します。



1 パック 56 g の 1/8 程度（約 7 g）を切り出します。



最初によくこねて軟らかくします。最初は固いのでこなごなになります。



全体が軟らかくなったら準備完了。



資料と見比べながら、頭・胴・脚のバランスを整え、おおまかな形をつくります。一つの塊から指先で整形します。



加工に使う道具です。右から平刃の彫刻刀、デザインナイフ、ピンセット、千枚通しです。

※爪楊枝と鉛筆でもある程度の加工はできます。



口などの直線的で深めの線刻はカッターで刻むと良いでしょう。



細かい線刻や入り組んだ所の表面仕上げには千枚通しが便利です。

まずは埴輪牛の完成です。今回は、今城塚の牛を参考に、欠失している角と耳を補ってみました。







2 つめのモデルは、笹鉾山 2 号墳出土の馬形埴輪（1 号馬）です。牛と同様に大まかな形をひねり出します。



脚の間や腹などの余分な粘土を彫刻刀でそぎ落としています。削りかすは後で鞍などのパーツに使います。



耳などのパーツを貼り付けていきます。焼く前は剥がれやすいので注意が必要です。



細い粘土紐をつかって、手綱や背中の飾りをつくっていきます。

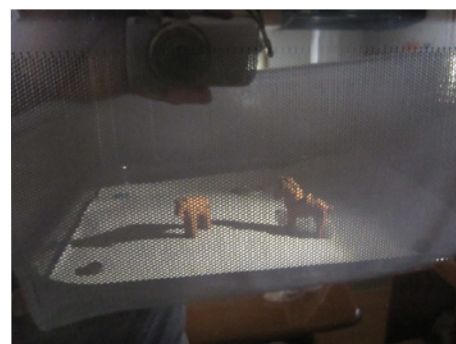
馬形埴輪の完成です。本当は鐙も粘土紐を貼り付けるところですが今回は線刻することになります。



脚が細いため、アルミホイルで支柱をつくってみました。



オーブンのスチール皿にクッキングシート（アルミホイルも可）を敷き、焼成する作品を並べます。



細い部分が多いので、今回は 18 分焼いてみました。



焼き上がると、つや消し調の仕上がりとなります。必要な場合、このあとカッター・ヤスリ等で追加加工することもできますが、表面の質感に差が出るので避けたいところです。



最後にストラップパーツを付けて完成です。